

若者 子ども 夢会議！

第2回

【日時】 令和6年10月5日 【場所】 廿日市市民ホール

廿日市市の理想の姿の実現に向けた課題解決のアイデアについて、
前回よりもパワーアップした議論が繰り広げられました！



9月7日に第1回の会議を開催し、自分とまちの未来について考え、意見交換を行いました。
第2回となる今回は、前回出てきたキーワードを深掘りし、課題解決に向けたアイデアを話し合いました。

若者子ども夢会議の流れ

本日のプログラム

1. 開会あいさつ
2. 廿日市市の基礎状況について
3. アイスブレイク「自己紹介ゲーム」
4. 前回WSのふりかえり
「私たちがとりまく社会潮流」
5. ワークショップ
 - ① 将来像のキーワードを深めよう
 - ② 深掘りしたキーワードの内容の課題を考えよう
 - ③ 課題解決に向けたアイデアを考えよう
6. 全体発表
7. 次回の案内
8. 閉会あいさつ

第1回

9月7日（土）14：00～16：00
テーマ「廿日市市 実施済み」
・将来の自分を想像し、実現したい夢や将来の姿を考える
・これから廿日市市が目指すべき、まちの姿を考える

第2回

10月5日（土）14：00～16：00
テーマ「夢の実現に向けて取り組むこと」
・夢を実現するための廿日市市の強み・弱みや課題を分析
・夢の実現のため取り組むべきことを行政・地域・自分達それぞれの視点で検討

第3回

10月27日（日）14：00～16：00
テーマ「若者子ども夢新聞を作ろう」
・第1回、第2回で話し合った内容をもとに10年後を想像して、
新聞記事をつくります！

News letter

当日の様子

廿日市市の人口や産業といった基礎情報の説明を行った後、自己紹介カードを用いて全員とアイスブレイクを行いました。5つのグループに分かれ意見交換を行い、最後に全体発表を行いました。

最初に人口などの廿日市市の統計情報を説明



アイスブレイクとして会場全体で自己紹介ゲーム！



キーワードから将来像を膨らませていきます。
最初はちょっとモヤモヤ。。



徐々に模造紙の内容が整理されてきました～



グループごとに理想のまちの実現に向けたアイデアを発表しました



※廿日市市では、現在、次期廿日市市総合計画の策定を進めています。

- 今回は、第1回のワークショップで出た**理想の姿のキーワードを深めること**をテーマに意見交換を行いました。
- それぞれの**キーワードが目指す状態**や、**実現に向けた課題**、**課題解決に向けたアイデア**について活発な意見交換がなされ、おぼろげであった**将来像のイメージが明確**になりました。
- 第3回の会議では、これまで話しあった内容をもとに、10年後を想像して新聞記事を作ります。

将来像の キーワード	目指すべき状態	キーワードの内容の課題を考える	課題解決に向けたアイデア
交流・ つながり 4つの班が発表	・子どもの親同士のつながり ・同世代の父親が知り合える機会 ・身近に相談できる人と出会える環境	・交流の場に参加しづらい ・施設の開館時間が短い ・イベント内容がよくわからない	・市民センターで行ってる内容をSNSやHPなどでお知らせする ・日常の生活動線（駅やスーパー）にポスターを掲示 ・全世代向けのプログラム施設と認識してもらう
	・就労外国人、障がいを持つ人、子育て真っ只中の人など、いろんな人たちが交流できる拠点がある	・イベントが主催しにくい ・要望を誰に出していいのかわからない ・外国人との接点がない ・発信側、受け手側ともに窓口がわからない	・何かの手助けになるちょっとした物々交換会から始めてみる ・要望を出すハードルを下げる ・国際交流協会がイベントの周知をする ・大きな祭り等を市の公式HPやSNSでアピールする
	・地域内または地域同士で協力できる（お祭りや事業がある）	・地域運動会等の交流するイベントが減少 ・支援が必要な人に届いていない	・地域同士のつながりを持てる拠点がほしい（情報もバラバラ）
にぎわう 3つの班が発表	・遊ぶ場所が多くなる ・イベントやお祭りに人が集まってくる	・廿日市駅の南側に公園がない ・子どもの遊び場がない ・海水浴をする場所がない ・外部の人がイベントに参加しにくい	・空き家を解体して公園をつくる ・学校のプールを活用する ・流行している話題をイベントや行事に取り入れる ・まちおこしプロジェクトを起こす
	・地域ごとの特徴を持つ場所に行きたい	・地域の特徴がない ・人口のかたより ・大きなイベントがない、告知が少ない	・人口が少ないことをアイデンティティーにする ・ネットやSNSを利用する
住みやすい 3つの班が発表	・アクセスを良くする ・車がなくても移動しやすい	・バスしかアクセスがない ・（山間部の）バスの本数が少ない	・コミュニティバスやレンタル自転車の普及 ・佐伯地域に若者が住み続ける、起業しやすく楽しめる環境 ・若者から注目されるようなお店やレジャー施設を増やす
	・子どもが伸び伸びと制約のない環境で遊べる場がある	・公園で遊びづらい ・学校から放課後、追い出される	・飲食可、自習可など自由度の高いテーブルやテラスのある公共施設（まるくる大野は良い！）
	・害獣被害が少なくなると危険性が低くなる	・居住地に出てくることが問題	・出没頻度が高い居住地と山間の境に警鐘を設置
若者・子ども 2つの班が発表	・ライフステージが変化しても住み続けられる ・廿日市に留まりたい気持ちを上げる ・進学就職の不安をなくす	・就職先の選択肢が少ない ・SNS等によって情報がたくさん入ってくる	・学生と企業のつながりを増やす ・廿日市の企業主体のイベントを設けやすくする
受け入れる 1つの班が発表	・障がいの有無関係なく地域で受け入れる環境	・支援やサービスが見えづらい	・手話などの授業、小さいころから「個性」について考える経験
	・移民の受け入れ、まちの防災訓練 ・外国語表記を増やす	・アジア系の表記が少ない	・外国語表記もある防災マップとゴミ出し表 ・町中にユニバーサルデザインを設ける